

福山大学 経済学部 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的	
領域: 使命・目的、教育目的	

2020年度

経済学部

中長期計画	経済学部の目的(経済学部規則第2条2)に次のように定められている。経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生をそだてるとともに、企業や組織体を牽引する人材を養成する。経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、経済や金融そしてスポーツ産業等のありようやあり方に十分な理解を有する人材を育成する。国際経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を養成する。税務会計学科は、広い視野と実践能力を持ち、会計学や経営学を十分に理解しそして活用できる人材を養成する。
--------------	--

2020年度

経済学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	①理念・目的は、経済学部規則第2条の2に明記している。 ②建学の理念・目的に基づいて経済学部の理念・目的を設定している。すなわち、経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生を育てるとともに、企業や組織体をけん引するような潜在力を育む。(経済学部規則第2条の2) ③即戦力として活躍できるように資格取得目標を設定している。
年度目標	現状を維持
年度報告	目的に基づいて学部運営を行った。 コロナ禍で、ビジネス検定、日商簿記検定などで熱心な取り組みを行い成果があった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 273P ②2020年度ビジネス検定実績・日商簿記検定実績
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	①経済学・経営学の両方の視座から学部教育を実施する点がユニークである。 ②社会を鳥瞰する実力を持たせるための教育を実施している点が特徴的である。 ③企業や組織体を牽引する力を育てようとしている点が個性的である。 ④資格取得対策を丁寧に実施することを明示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 23P 25P ②2020年度ビジネス検定実績・日商簿記検定実績
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	①社会の要請としては、備後企業との対話を通して求められる人材について意見交換をしている。 ②背景の変化に対しては急激なグローバル化、高齢化、少子化を反映している備後地方経済の分析をしている。 ③即戦力となるような資格取得について検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍で従来の企業懇談会は実施できてないが、昨年度の出席者に対してメールにより関係を深めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①企業懇談会出席者へメール発信
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	①教員が備後企業と密接な関係を持ち連携を深め、理念実現に努力している。 ②資格取得対策を教職員が一体となり取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍で企業懇談会は実施できてないが、昨年度の出席者に対してメールにより関係を深めた。また学部内で資格取得委員会などを組織して教職員の理解、支持を得るよう取り

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①企業懇談会出席者へメール発信 ②経済学部諸委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	①講演会、企業訪問等の活動実績をホームページに記載している。 ②学長室ブログ、学科ホームページで周知を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①海外研修、資格取得についての学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	直接、中長期計画を修正するという形では反映させていない。現状の取り組みは中長期計画の現状の範囲内で実施しており、整合的であると判断している。
年度目標	中長期計画と齟齬があるかどうか検証する。
年度報告	学修効果を高めるようカリキュラムの見直しを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2021年度経済学部カリキュラム改定（第10回評議会提出資料）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	①ディプロマポリシー 取り組みの結果が教育成果となり卒業資格の構成要件となっている。 ②カリキュラムポリシー 学部の取り組みはカリキュラムに反映し実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	3ポリシーの変更はないが、学修効果を高めるようカリキュラムの見直しを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2021年度経済学部カリキュラム改定（第10回評議会提出資料）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	カリキュラム関係部分では理念に則り学部全体で取り組んでいるので整合的であることは自明である。
年度目標	現状を維持
年度報告	カリキュラムの見直しは、教務委員、学科会議、学科間調整、運営委員会、教授会で十分議論した。運営委員会は、各学科を代表する学科長が参加している。また学部における諸委員会は、各学科を基本として参加しているため、整合性には問題がない。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2021年度経済学部カリキュラム改定（第10回評議会提出資料） ②第13回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

基準2. 学生

領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

経済学部

中長期計画	中目標 各学科の定員充足を確保する。 小目標 オープンスクールの充実化。学科活動の見える化。フェイスブック等広報充実化。在学生の満足度向上推進。
-------	---

2020年度

経済学部

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。

現状説明	①アドミッション・ポリシー策定に関して、教育目的と密接に関係させている。 ②周知の点ではホームページ・パンフレット、学生便覧に記載して内外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 21P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	①学科内教員が適正を把握し、問題があれば未然に解決できるように学科会議等で案件として対応を議論している。 ②改善であるが、定員未充足の状況の学科での改善が遅れがちである。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みが継続された。 第1回学部教授会で学部長から、アドミッション・ポリシーに沿って受験生確保に万全を期すよう要請があった。経済学科は定員確保ができたが、国際経済学科、税務会計学科は引き続き未充足となった。
達成度	B
改善課題	国際経済学科、税務会計学科の定員確保
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録 ②経済学部の現状と改革（2021年3月）
次年度の課題と改善の方策	策定した国際経済学科、税務会計学科の改革案を、各学科間で共有して学科の魅力発信に努める。
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	①入学生受け入れ状況について運営委員会にて検証している。 ②増減の原因を学科別および試験別に分析している。
年度目標	運営委員会が検証体制を設け、検証を実施する。
年度報告	運営委員会で検証を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部の現状と改革（2021年3月） 結果を学長、副学長ほかへ提示
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	①経済学科は定員を確保できているが国際経済と税務会計は定員割れが続いている。 ②高校訪問など学生募集の機会を増やし、効果的説明を実施する。
年度目標	定員割れ対策について入試の参事と相談すると共に、経済学部運営委員会においても必要な対策を検討する。
年度報告	各学科が学科の魅力発信に努めるとともに、入試部門と連携し入試別、合格者数などに検討を加えた。経済学科は、定員確保できたが、国際経済学科、税務会計学科は出来ていない。昨年同様にできなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部の現状と改革（2021年3月） ②入試広報室の合格者データ
次年度の課題と改善の方策	

2020年度		経済学部
中点検項目	2-2. 学修支援	
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。	
現状説明	①協働に関して、基礎ゼミ、教養ゼミで主として担当者がオムニバス形式授業や資格対策を実施している。 ②学内外には資格取得結果をホームページに掲載している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状の取り組みを継続した。 コロナ禍で大半がオンラインによる授業であったが、教員、職員等の関係者で連携を図り円滑に実施し教育効果を高めた。	

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度ビジネス検定受験実績データ ②経済学部ホームページブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	基礎科目である基礎簿記に配置している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。実施にあたってはTA等活用計画書に基づいて適正に取り組ん
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②TA等の事前研修に関する基本方針
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	支援体制としてキャリア教育を通して指導している。キャリア形成支援委員会を設置し系統的に支援ができるように運営している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②資格取得支援委員会 ③TA等の事前研修に関する基本方針
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	①就職率は改善傾向にあり、未内定者数は減少しているが、その他が例年28名程度おり、その分就職率は下落している。 ②検証するに及んでいない。
年度目標	現在の取り組みを継続し内定率100%を達成する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。 コロナ禍で前年度の水準を確保した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2017年度以降の就職率データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	①資格取得は様々な資格対策を学部全体で推進する体制を整備して実施している。 ②インターンシップに関して、全学的に推進する取り組みに参加するように指導してい
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍でMOS、証券外務員講座は3密をさけるため実施できなかった。ビジネス検定、日商簿記は限られた条件の下で、遠隔授業、個別指導を通して成果を上げることができた。インターンシップについては、各種イベント等に参加するよう支援した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②資格検定、インターンシップ実績データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	就職指導は主に学部内就職委員とゼミ担任が協力して指導し、学生には就職課の活用を勧めており、質的量的向上を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みが継続された。 就職委員の主導により、学生に対してきめ細かい指導に努めた。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②就職率データ ③2020年度大学要覧 112～114P
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部

中点検項目 2-4. 学生サービス

点検項目 ① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。

現状説明	奨学金制度があり必要な支援は受けることができる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2020年度学生便覧 216P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度大学 111P
次年度の課題と改善の方策	

点検項目 ② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。

現状説明	学部内にハラスメント対応委員会およびハラスメント相談員を設置して対応する整備をしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2020年度学生便覧 321P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	

点検項目 ③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。

現状説明	①サークル活動に関して、サッカーと野球は部長の下で専門的指導を受けている。 ②留学に関しては国際経済学科教員および国際交流で相談に対応している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 課外活動、国際交流等の活性化に貢献した学生・団体（サッカー部）に対して、学生表彰規定に基づき表彰した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度学生表彰推薦書（在学生、卒業生）
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部

中点検項目 2-5. 学修環境の整備

点検項目 ① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。

現状説明	①大学全体の建物、施設等については福山大学全学共通設備・機器等管理委員会で検討し順次実施している。 ②学部に関する設備（端末、ブルームバーク、日経テレコムなど）の設備整備方針は、経済学部のありようから見て適切である。 ③学部に関する設備等については、教員からの要望を聴取し、必要であれば運営委員会を通して予算要求している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①福山大学ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp
次年度の課題と改善の方策	

点検項目 ② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。

現状説明	図書館については、オリエンテーションで説明をしている。また一部の教員は実際にゼミ生を図書館に引率して資料の場所を説明するなどして利用を促している。
------	---

年度目標	図書館利用促進対策を策定し実施する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。 図書館利用促進対策を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp ②第28回経済学部教授会議事録 ③図書館利用促進対策（経済学部図書館運営委員）
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	全学的な取り組みの中で推進されるべき事柄という認識の下、対象となる学生に対応できる対策を実施している。最近の事例では受講時の席の位置を特別に配慮することであつ
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度大学要覧 104P
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	受講者数に対応した教室を使用している。ICT機器を利用する講義ではその設備のある教室を利用している。パワーポイントを利用する授業はほとんどの教室で実施できるようになっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度教務の手引き 191P
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	業者の点検が定期的実施されており経済学部単独では実施していない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学防火・防災管理規則
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	経済学部には劇物・危険物を扱うケースはない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 232P
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	安全マニュアルを作成し、学生に配布し講習を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 1年生を対象に危機管理研修を実施した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①危機管理マニュアル ②経済学部安心安全マニュアル ③研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部

中点検項目 2-6. 学生の意見・要望への対応

点検項目 ① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。

現状説明 ①ゼミ担任が意見を把握し、相談にのっている。
②授業評価アンケートにおける意見を集約して学科長へ報告し、講義内容を改善する体制を実施している。

年度目標 現状を維持

年度報告 現状の取り組みを継続した。

達成度 **A**

改善課題

根拠資料 ①経済学部ホームページ <https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/>

次年度の課題と改善の方策

点検項目 ② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。

現状説明 ①ゼミ担任が対応している。
②学部内にハラスメント相談員、学生委員会を設置しており問題があれば対応する。

年度目標 現状を維持

年度報告 現状の取り組みを継続した。

達成度 **A**

改善課題

根拠資料 ①経済学部ホームページ <https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/>

次年度の課題と改善の方策

点検項目 ③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。

現状説明 ①ゼミ担任が対応している。
②学部内に教務委員会を設置しており問題があれば対応する。

年度目標 現状を維持

年度報告 現状の取り組みを継続した。

達成度 **A**

改善課題

根拠資料 ①経済学部ホームページ <https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/>

次年度の課題と改善の方策

2020年度 経済学部

基準3. 教育課程

領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2020年度 経済学部

中長期計画 全学的には、大学学部教育における教育目標を示す「福山大学教育システム」の方針、この方針に基づいた学位授与方針がある。それに加えて、平成26年度に新たに定めた、経済学部・学科の目的、ディプロマポリシーそしてカリキュラムポリシーがある。平成27年度にはカリキュラムポリシーが全学的に見直されている。中目標としては、経済学部の目的や3つのポリシーの維持に努めることである。小目標としては、経済学部運営委員による中目標点検とする。

2020年度 経済学部

中点検項目 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

点検項目 ① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。

現状説明 周知に関しては、大学構成員に対しては学生便覧、社会に対しては主としてホームページ、パンフレット等で説明している。

年度目標 現状を維持

年度報告 現状の取り組みを継続した。

達成度 **A**

改善課題

根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度大学要覧 115P
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	①策定に関して、全学的には、教務委員会、大学教育センター、評議会等で検討している。学部内では、学部教授会、学科会議、学部教務委員会等で随時検証し適切な基準になるよう検証している。 ②周知に関して、学生便覧及びホームページに明記している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度教務の手引き 18P
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	①基準の公表に関して学生便覧、ゼルコバで周知を図っている。 ②適用に関して、年度末に進級判定、卒業判定会議で基準を適応して審議している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 273P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度教務の手引き 18P
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	①策定であるが、執行部が原案を作成し学部教授会で承認を受けたものを学部のポリシーとして運用している。 ②周知に関しては、学部HP、学生便覧、ゼルコバに掲載して周知徹底を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを着実に達成できればディプロマ・ポリシーで描く像に最短かつ最速で到着できることを明示している。
年度目標	運営委員会において、一貫性が保証されるように検証する。
年度報告	2016年度見直しを行っておりカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性は保証されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーで具体的な科目群設置を述べ、教育課程における個々の科目は具体的にそのジャンル内の科目を設置している。
年度目標	現状の編成を検証し問題点があれば改善する。

年度報告	基本科目を確実に学修できるようカリキュラムの見直しを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部カリキュラム改訂（第10回評議会提出資料）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	教養科目は3群にわたり芸術とスポーツの群を含む10単位を最低履修しなくてはならない。芸術とスポーツの群の科目の単位数は1単位科目がほとんどである。また、教養科目は十分に用意しており興味のある学生は利用できる環境にある。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	全学的な方針の中で、現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 29P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	①教授方法ではないが、各自の研究内容報告を月1回実施している。 ②この研究会を通して教員間の学習機会増進を図っている。 ③具体的には、ブルームバーグ、日経FinancialQUESTなどを利用した金融教育、また若手教員を中心にCerezoの活用が広まっている。産業界と連携した地域調査など教授方法に工夫を凝らしている。
年度目標	教授方法の工夫・開発をした教員がいればそれについての講義を依頼する。
年度報告	コロナ禍で、全学的に示された教育方針に基づいて実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①遠隔授業の準備・実施ガイドライン ②大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮等について（文科省）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	卒業判定はカリキュラム・ポリシーの達成面からの最終的総点検である。ディプロマ・ポリシーはカリキュラムを実施し単位認定を行うことにより達成できていることを仮定して
年度目標	両者の間に齟齬をきたさないように点検する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。 両者の関係を運営委員会で確認し学部教授会へ諮った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P 273P ②2020年度第28回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	①学習成果の点検・評価方法の確立について、経済学部運営委員会により点検を実施し問題点があれば議論している。 ②検証に関して、経済学部運営委員会により実施している。 ③アセスメント・ポリシーに基づいた授業評価、GPA分布などは、教員間において情報共有し意識づけしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 6Pほか（大学・経済学部アセスメントポリシー） ②福山大学教育システム https://www.fukuyama-u.ac.jp/education/principles/ ③経済学部運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	①フィードバックに関して、経済学部運営委員会で決定後に教授会において学生指導上の注意事項として注意喚起している。 ②改善に関しては、適宜運営委員会で取り上げている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②福山大学教育システム https://www.fukuyama-u.ac.jp/education/principles/ ③経済学部運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

基準4. 教員・職員**領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2020年度

経済学部

中長期計画	①教学マネジメント 教員の組織的な連携体制について、経済学部運営委員会(学部長、学部長補佐、研究科長、3学科長、研究科長、教務委員)による学部運営方針の決定をしている。責任の所在は経済学部運営委員会である。②教員・職員配置 現時点では、経済学科は14名、国際経済学科9名、税務会計学科8名である。設置基準に沿った人員配置を適切に実行する。長期ビジョン実施体制を構築する。小目標 資格取得実施体制を作る。社会人基礎力のためのアクティブラーニング導入体制を作る。③研修 全学的方針で実施されるものについては教授会などを利用して参加を要請している。④研究支援 学術進展に関して、2つの研究会(経済学研究会、備後経済研究会)を定期的実施する。
-------	---

2020年度

経済学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	①学長の指示する大方針に基づいて、個々の科目にまで至る経済学部教育を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度全学教授会議事録 ②2020年度経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	①役割の分散化に関しては、教務委員、学生委員、就職委員などを設置して対応を図っている。 ②①の担当者はそれぞれが委員としての職務を果たしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度経済学部諸委員会委員名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	①職員は適正に配置されているが、人数が少ないことに加えて業務内容が多岐にわたるため、役割はあまり明確化されておらず、総合的に職務に当たっている。 ②教員は職員と協力しつつ教学マネージメントの水準向上に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度経済学部教授会議事録 ②2020年度経済学部諸委員会委員名簿
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	①教員選考にあつては「福山大学教員選考基準」「福山大学教員選考基準内規」「福山大学経済学部経済学部教員選考基準」に則っている。また、教員採用は原則公募であり、博士号を有する者、博士号を有する者と同年以上の教育研究能力がある者、応募科目および関連科目に関する講義が可能な者、という条件を付けている。 ②性別に関してはポジティブアクションを選考基準の重要な柱の一つとしている。年齢に関しては学科内で調和が保たれることを考慮している。職階は現状の教授数などを考慮して募集している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 将来中心となる教員は確保できたが、予定教員1名が未達成となった。
達成度	A
改善課題	配置換えにより対応
根拠資料	①2020年度経済学部人事計画 ②2020年度教員選考委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	経済学科14名 (+4)、国際経済学科9名 (+1)、税務会計学科8名 (+0) と教員数は確保できている。()内は基準との差異。
年度目標	設置基準に配慮しつつ人事計画を立てる。
年度報告	現状の取り組みを継続した。 経済学科2名、国際経済学科2名の採用ができた。 将来中心となる教員は確保できたが、予定教員1名が未達成となった。
達成度	A
改善課題	配置換えにより対応
根拠資料	①2020年度経済学部人事計画 ②2020年度教員選考委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	全学実施のFDに積極的に参加するように要請している。また経済学部においては経済学部研究会で教員の研究内容説明会を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続したが、経済学研究会は、コロナ禍で実施できなかった。
達成度	B
改善課題	教員の研究時間は、各教員の判断で確保している。 研究室の設備の整備については年度予算申請を通して、教育研究環境整備を図っている。 委員会が多いこと、加えて新任教員を含む勤続年数の僅少教員が学部内に多いことから、各教員の研究環境は厳しい状況にある。
根拠資料	①FD研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	経済学研究会は日程調整を行い実施する。

2020年度

経済学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	職能開発面に関しては、経済学部運営委員会において、十分に本来の期待される機能が発揮できるような体制となるように、構成員の組み合わせ等を配慮して実施しているところである。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状の取り組みを継続した。 大学主催、学部主催（リスク管理、教育倫理）のFD, SD研修には全員参加を基本に取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	①メールによりファイルを配信することでほとんどの連絡は効率的に実施されている。学生指導においても必要不可欠の手段となりつつある。 ②また、場合によってはメール会議などの利用により効率的に会議時間を活用できている。 ③Zelkova、Cerezo、Office 365を活用している教員も増えつつある。Karinについては、まだ十分に活用できていない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みが継続された。 コロナ禍で、学部教授会、学科会議等において従来の見直しを適切に行い効率改善を図った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ICTサービス関連メール ②2020年度経済学部教授会議事録 ③リモート会議実施議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	教員の研究時間は、各教員の判断で確保している。 研究室の設備の整備については年度予算申請を通して、教育研究環境整備を図っている。 委員会が多いこと、加えて新任教員を含む勤続年数が僅少教員が学部内で多いことから、各教員の研究環境は厳しい状況にある。
年度目標	①委員会委員に関しては教員の適正を考慮して委員に選任する。 ②研究環境に関しては各教員に問題があれば早急に対処していく。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学資産管理規程 ②Cerezo勤務時間確認 https://cerezo.fukuyama-u.ac.jp/ct/course_258433
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	①福山大学学術研究倫理審査委員会があり、規定も整備している。教員全員に周知徹底している。 ②加えて、経済学研究会が編集している『福山大学経済学論集』に投稿規定を定めている。その中に剽窃等に関する倫理規定があり、これらを周知し適切に運用している。 ③福山大学学術研究倫理審査委員会によって、適切に運用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度福山大学コンプライアンス教育（研究関連ガイドブック）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	①資源配分に関しては、個々の教員への研究時間は適切な範囲で確保している。資金面では科研費申請で研究費を確保可能である。 ②運用の適正性に関しては、特定の個人に負担が集中しないように運営委員会で慎重に議論している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度福山大学コンプライアンス教育（研究関連ガイドブック）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	①科研費については、教員が管理せず、事務方が管理するように定めている。 ②科研費のコンプライアンスについて、教員全員が参加するなどして周知は図られている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度福山大学コンプライアンス教育（研究関連ガイドブック） ②研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

基準6. 内部質保証**領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2020年度

経済学部

中長期計画	中目標 教育方針である、実践能力を充実させる、広い視野を獲得させる。外部から高い評価を受けることができる学生を育成する。小目標 個々の教員による卒論指導の充実化。ビジネス能力検定試験、MOS等の資格試験に合格させ、社会人基礎力を定着化させる。グローバル化に対応した人材育成プログラム充実化。
-------	---

2020年度

経済学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	<p>本学においては、福山大学自己点検評価規程（趣旨）第1条、（目的）第2条、（実施体制）等の中に明記してあり、適正に運用している。また経済学部においては、福山大学経済学部自己点検評価委員会細則（趣旨）第1条、（目的および業務）第2条、（組織）第3条等の中に明記してあり、適切に実施している。実施体制は、全学自己点検評価委員会、学部等自己点検評価委員会等を置き目的達成に努めている。</p> <p>また学部においては、学科会議、学部運営委員会、学部教授会があり、学部長を中心に責任体制は確立している。自己点検評価については、全学の基準に従い、計画、実施、点検、修正を行い、責任体制を確立している。また内部質保証をさらに高めるために、5年ごとに外部評価委員会を実施している。</p>
年度目標	現状を維持
年度報告	<p>現状の取り組みを継続した。</p> <p>運営委員会は、昨年までの体制を大幅に見直し、毎週月曜日を定期として学科長以上、事務長を加えた6名体制としている。運営委員会は、報告だけでなく学部学科が抱える課題をテーマにして全員が議論を深め決定している。</p>
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規程 ②福山大学経済学部自己点検評価委員会細則 ③2020年度経済学部運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	<p>①問題を早期に発見し可能な対応を運営委員会で協議している。</p> <p>②問題が発見されると、運営委員会、教授会での審議等を通じて、適宜、解決につなげている。</p> <p>③学部教授会では、節目節目で主要な取り組み、結果を教員に周知している。また、予算要求においては自己点検項目のかかわりを徹底するよう意識の共有をしている。</p>
年度目標	現状を維持

年度報告	現状の取り組みを継続した。 自己点検に関する年度報告、事業計画は学科内で協議作成し、最終的に運営委員会で調整しているので学部内の教職員が理解している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度経済学部運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	データ収集・分析は十分に実施できていない。
年度目標	授業評価アンケートは一部の教員が分析し、授業改善を行っているが、全体的にIRデータの活用は、組織的な取組みになっていない。教授会などで学生指導、授業改善等に向けて活用するよう要請する。
年度報告	年度始め、定期試験時などの学部教授会で、学部長が学生指導、授業改善等について全教員へ要請している。入試広報室から収集した情報から、入試対策を傾向分析し活用している。また退学留年等におけるデータ分析を実施している。
達成度	A
改善課題	学生指導・授業改善に向けたIRの活用・分析
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録 ②2020年度入学状況調 ③2020年度入試種別合格者手続き等資料
次年度の課題と改善の方策	教員へ要請するだけでなく、FD研修に位置づける。

2020年度

経済学部

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	自己点検評価委員会(全学委員)は3名の学科長である。それに、教務委員が加わり、学部内の自己点検を行う。学生の授業アンケート、卒業生アンケート、成績の分布を委員会が共有して、PDCAサイクルを回して内部質保証に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度授業評価アンケート結果報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	教員の法令遵守については、全学的な方針にしたがっている。人権の尊重については、教授会等で教員に要請している。研究に関しては、経済学研究会が発行する紀要『経済学論集』には投稿規定があり、倫理規定が定められている。投稿規定は平成24年度に教授会で審議・議論され、制定された。平成26年度にコンプライアンスにかかわるFD講演があった。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。FD研修を全員参加で行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学研究関連ガイドブック(2020年4月改定) ②経済学部モニタリング調査(年2回) ③研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略
領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価(本学独自基準)

2020年度

経済学部

中長期計画	<p>福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」(発行5700部)に、福山大学経済学部 of 教育目的の一つに「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマにした記事を1年間掲載している。経済学部では常に全人教育を念頭においた取り組みを進めている。</p> <p>①備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えている。このためトップ10、地域調査、備後経済論などは、グローバル人材育成、地域特性を踏まえた人材育成の取り組みを行っている。</p> <p>②資格検定の実績向上に努めている。</p> <p>③経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元就職し活躍している。企業懇談会等をととして、また資格検定の合格者数等で検証している。</p>
-------	---

2020年度

経済学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	<p>ブランディング戦略については、年度初めの学部教授会で周知している。備後経済研究会は、研究会、講演会の開催時に教職員へ周知している。また関心のある学生・院生・社会人についても参加を呼び掛けている。</p> <p>また今年度の研究プロジェクトは次のとおりである。</p> <p>①備後地区の里山里海資源が、内海町、広瀬町の地方再生に向けた具体的役割を検証しつつ、他の取組を事例に可能性を探る。</p> <p>②海外市場開拓については里山里海の特産品の海外市場へのアクセスを巡る問題点、解決策を中心に考察する。</p> <p>③備後地域における地域資源の活用と当地域の企業経営の特長を探る。</p> <p>④備後地域の多くの企業は、環境保全に配慮しつつ、繊維、機械、製鉄など全国有数の生産地を形成してきた。具体的な取組を探る。</p>
年度目標	現状を維持
年度報告	経済学部は、ブランディング事業運営委員会を中心に、里山・里海資源に基づく備後地域の産業競争力増進との好循環の創出の可能性について取り組んでいる。例年通り年度初めの学部教授会で全教員へ周知徹底した。今年度においては、効果が期待できる備後経済研究会は新型コロナ感染防止の観点から開催ができなかった。一方昨年度実施した経済学部外部評価報告書を発行して産業界等関係団体へ送付した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	<p>①2020年度第1回学部教授会議事録</p> <p>②福山大学ホームページ研究・産学連携 https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/</p> <p>③2019年度経済学部外部評価報告書(2020年度発行)</p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	備後地方は、全国的に多様で有数の産業集積地である。これらを踏まえて、地元商工会議所や県立産業会館の運営に参加している。学部では国際経済学科ではトップ10カリキュラムを進めグローバル人材育成を目標に掲げて取り組んでいる。また税務会計学科では備後経済コースを設置し、地域調査、備後経済論、地域経済研究をととして、備後地域企業にとって有用な人材育成に取り組んでいる。また備後経済研究会は、業界、企業に対して産業界と連携した研究を実践している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。コロナ禍で備後経済研究会は開催できなかったが、遠隔授業、また海外研修(インドネシア)ではリモートによるバーチャル体験を行うなどして大きな成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	<p>①福山大学経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/</p> <p>②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/</p> <p>主なもの</p> <p>2020.8.6 早川教授「コロナ禍における福山市経済の動向ほか」情報提供</p> <p>2020.8.12 「地域調査」地元企業と連携した新たな授業形式を導入</p> <p>2021.2.15 張楓教授 中小企業研究奨励賞(商工総合研究所)</p>
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	経済学部では、未来創造人を育成することを目指して産学官民連携を様々な形で取り組んでいる。国際社会につながるグローバル人材育成として経済学部は、トップ10カリキュラムをはじめ、4大学連携講座、トビタテ、フィリピン、インドネシアなど各種海外研修を実施している。これらの多くはすべて産官と連携した事業となっている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	基本的には、現状の取り組みを継続した。 4大学連携講座は、福山市の財政的な事情から実施できなかった。また、コロナ禍で海外研修は出来なかったが、一部の海外研修（インドネシア）ではリモートによるバーチャル体験を行うなどして大きな成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ 研究・産学連携 https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/ ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/ ③2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地元産業界を代表する福山商工会議所と記事掲載、イベント共催、協議会参加などで積極的に連携している。また研究プロジェクトに地域再生をテーマにして、里山・里海学では、観光、流通、商工振興など備後地域の特性を生かす取り組みを行っている。備後経済研究会は継続して産学連携を進めており、業界、市民へ成果を還元している。シンポジウムなどのイベントでは参加者に対してアンケートを実施している。
年度目標	里山里海資源が内海町などでどのように生かされているか検証し、問題点を探る。
年度報告	コロナ禍の産業界では積極的な展開がなされていない。地域創生においても広瀬、内海町においても各種行事がすべて中止され、地域に詳しい方との接触も出来ず予定の取組は出来なかった。一方、今後につながる人的な関係は絶やさないよう取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 経済学部教授 張 楓 日本経済評論社 ③福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念 経済学部講師 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊨ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	①備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えている。このためトップ10（国際経済学科で成績優秀者10名程度に対して大学が費用を半額負担し、国内1週間、海外3週間程度で実施する問題解決型海外研修カリキュラム）、備後地域研究、備後経済論などは、グローバル、里山・里海の特性を生かす取り組みを行っている。 ②経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元で就職し活躍している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。コロナ禍で一部予定どおりでなかった（海外研修）が概ね目的達成した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②大学要覧（国際経済学科ページ）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊩ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。

現状説明	里山・里海の経済をグローバル経済につなげていく、市場調査、食品産業の実態、また内海町などの里山里海の資源が地方再生に向けた今後の可能性を探ることにしている。税務会計学科備後経済コースでは、地元企業と連携した実践的な地域調査、備後経済論を開講している。備後経済研究会は、個別の企業・個別業種のデータを整備し、データベース化しながら事例分析を行うことにしている。上記のことを、主要には大学ホームページにより周知を行い、行政関係、企業経営者、一般市民などが参加している。備後経済研究会の参加者は平均15名で、成果が検証できると判断している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	コロナ禍で従来行っていた現地調査を伴う取り組みはできなかった。その他については現状の取り組みを継続した。また備後圏域経済・文化研究センターを設置し地域連携を積極的に進めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 経済学部教授 張楓 ③福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念 経済学部講師 大
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2019年度から従来の研究テーマの見直しを行っている。見直しは里山・里海の一層生かすことから内海町・広瀬町の地域再生、観光資源の発掘と情報発信、また農林水産資源調査などを研究プロジェクトに加えた。研究課題「観光資源と情報発信」は、従来の内容に備後地域特有の起業家精神や戦略が存在するという仮説を立て、備後地域における企業についての研究を実施する。備後圏域経済・文化研究センターが設立されたのを機会に、学部教員全体がブランディング戦略に関心を持ち参加するよう期待している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	経済学部はビジネス能力検定を指標に位置付けている。例年2回の試験であったが、今年度はコロナ禍で1回だけに実施であった。全国的には受験生は45%減であったが経済学部は、14%減に留まり2級の合格者は53名から67名へ増加した。また就職内定率は、現時点で実質100%と前年並みを確保している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度参事会（2月26日）資料 ②就職課就職率データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取組んでいますか。
現状説明	2019年度から従来の研究テーマの見直しを行っている。見直しは里山・里海の一層活かすことから内海町・広瀬町の地域再生、観光資源の発掘と情報発信、また農林水産資源調査などを研究プロジェクトに加えた。これは経済学部として里山里海に関連した地域連携を進めることから重要である。学部全体が取り組む体制となり、また身近なテーマだけに地域連携の実効性が上がると期待している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。また2020年度に備後圏域経済・文化研究センターを設立したので、教員の関心を高め計画的に取り組む。
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターが設立され、学部教員に対して主旨を確認し理解を深め
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
2020年度 経済学部	
中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	㊨ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	学部内でプロジェクトチームを作成している。メンバーは張楓を中心に、尾田、平田、佐藤、劉、大城、合計で6名である。研究は、地方再生、中国市場調査などいずれも地域に関連した4件である。予算要求、予算執行にあたっては、学部事務室が円滑に推進できるよう支援している。

年度目標	現在の努力を継続する。2020年度から備後圏域経済・文化センターを設立したので、学部教員が関心を持ち参加する意識を一層高める。
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターが設立され、学部教員に対して主旨を確認し理解を深めた。 一方研究プロジェクトは、いずれも現地調査を伴うものでコロナ禍で全体的に取り組みが
達成度	B
改善課題	調査先に理解を求めて調整する。
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	年次計画で実施しているので偉業が繰り延べになる。 最終年度となる地域調査は、個人研究として継続する。
点検項目	㊟ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	外部資金獲得に向けて公益財団法人広島産業振興機構などと協議したが、事業期間は単年度であることなどから不調に終わった。引き続き他の資金獲得に向けて努力する。 現在では、一般財団法人義食と資金獲得に向けて協議を行っている。
年度目標	現在の努力を継続する。効率的な執行に努め、外部資金獲得に一層の努力をする。
年度報告	現状の取り組みを継続した。外部資金は獲得できなかったが、内部資金については出版助成（800千円）を獲得できた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度福山大学出版助成 『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』経済学部教授 張 楓
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊟ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行っている。企業調査では、『福山市史』の編纂に携わり、また商工会議所の定例役員会で講和するなど発表している。その他については、計画の途中であり発表の段階ではない。 備後経済研究会では、例年4回の開催をとおして成果を行政関係者、一般市民、会社役員、経営者、本学学生などに広く発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取組を継続するよう努めたが、コロナ禍で研究プロジェクト、備後経済研究会など一部について実施できなかった。こうした中で備後福山における多様な企業な発展、経営分析について発刊するなど社会に対して研究の成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』経済学部教授 張 楓 ②福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念 経済学部講師 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	